

アムステルダムWaterinnovatioNH

水循環・まちづくりグループ 研究員 伊藤 将文

1. はじめに

2014年12月11日(木)にオランダアムステルダム市において『WaterinnovatioNH』会議が開催されました。

この『WaterinnovatioNH』は、国土の半分近くが海抜ゼロメートル地帯に位置するオランダにおいて、水災害の防護、水源の確保などの様々な水問題について、多方面の関係者による協議を目的として北ホラント州が主催したものです。

表1 WaterinnovatioNH プログラム (意訳)

午前の部 (9:30-12:00)	
基調講演	
Joanna Geldhof (北ホラント州 副知事)	
Paul Korting (Energy research Centre of the Netherland CEO)	
Bas Haring (リンデン大学 客員教授)	
昼食及び知識・技術交流 (12:00-13:00)	
午後の部 (13:00-17:30)	
テーマ別に8つの分科会	
分科会1	気候変化への耐性: 水災害への安全性と環境を両立する新たな解決策
分科会2	気候変化への耐性: 干拓地の付加価値
分科会3	気候変化への耐性: 気候変化に強いまちづくり
分科会4	淡水: ハールレメルメールにおける淡水利用に関する革新的長期的な解決策
分科会5	循環経済: 循環経済の担い手としての水
分科会6	公開情報、情報通信技術: 情報共有がもたらす利点
分科会7	地下資源の共同管理
分科会8	合意形成: 持続可能なエネルギーと水インフラのための革新的な協力体制・官民連携の取り組みと課題
閉会及び懇親会	

2. 『WaterinnovatioNH』会議

参加者は分野が様々で、技術開発、市場開拓、水受給者、スポンサーの4つの分野からおよそ180名が参加しました。

この会議は、「最新の水に関する技術革新に関する知識共有」、「他分野とのインスピレーションを促進すること」、「他分野との人的ネットワーク、連携強化」の3つを目的に掲げています。

(1) 基調講演

基調講演は様々なステークホルダーを交えた午後の分科会協議の前段として、明確に位置づけられていました。

北ホラント州副知事からは、『「水の庭」北ホラント州に協力と参加がもたらす革新』と題した同州における現状の水事情に関する講演が行われ、高潮対策や河川水害などの治水に関わる問題や、低平地故の水資源確保に関わる問題や湿地環境や海岸養浜に関わる環境問題等が紹介されました。

また、水問題に関わる民間企業の協力による取り組み事例の紹介や哲学者の観点から“innovation(革新)”とは何か、という考察が論じられ、午後の分科会の聴講者に知識の素地を提供するものでした。

(2) 知識・技術交流

いわゆるポスターセッションで、民間企業からは独自に開発した製品の紹介(例えば、透水ブロックや潮位を利用した完全自動式の防潮堤など)や研究者等による成果発表

が行われました。我々日本の参加者は、低平地帯における水害対策の取り組みについて、高規格堤防を主に展示紹介しました。



写真1 展示風景

(3) 分科会

われわれが参加した分科会1の内容は高潮堤防護のための養浜事業の実施報告でした。

講演者は、北ホラント州のプロジェクトリーダーなど事業関係者の他、市民との合意形成に至る経緯については、驚いたことに市民代表者が自ら市民の視点からみた事業の経緯を講演するものでした。

市民代表者視点から養浜事業に関わる問題点、事業により生じる損害や工事後の状況等について具体的に語られたこと、当初反対していた市民が前向きな(柔軟な)思考で事業に協力する体制へと変わった経緯が語られたことも個人的には大きな驚きでした。



写真2 養浜事業実施箇所

3. おわりに

主催者によると『WaterinnovatioNH』は様々なステークホルダーを交えた官民共同の議論を行う初のイベントであり、『会議』よりも『エンターテイメント』を意識して企画したものだということです。

そのため“Conference(会議)”と銘うってはいますが、基調講演及び分科会は、講演者の発表に対して質疑や意見を発言するシンポジウム形式の参加型会議でした。

また、司会に有名タレントを起用する他、ゲーム形式の議論、懇親会に大道芸人による余興など、参加者を楽しませ積極的な意見を引き出すための仕掛けが随所に見られました。

また、基調講演で副知事自らが協議に向けた最低限の知識の素地を分かりやすく提供していることも驚きであり、日本国内のイベントでも参加する市民の間口を広げるために参考にすべきところが多い会議でした。